

教員養成における彫刻・立体造形分野の実践的研究 —パブリックアートに関する題材及び素材に着目して—

一 歟田 徹・井戸川 豊¹

(2022年12月5日受理)

Research on Sculpture and Three-Dimensional Works in the Teacher Training Course :
Focusing on Materials of Public Art Works

Toru Hitokuwada and Yutaka Idogawa

Abstract: Sculpture and third-dimensional training course opportunities for art teachers in secondary education evidently show important knowledge acquisitions for students seeking to become teachers. Students are found to have firsthand experience with diverse expressions and materials, a necessary learning objective. Fields of sculpture art and craft art, in particular, have a significant relation between art works and materials. Therefore, it is necessary to have a thorough understanding of the characteristics of these fields. The present study examines works and results of assignment submissions of students who attended the course, focusing on classroom practices, with the theme of public art, "Seminar in Carvings and Sculptures", that were held by the School of Education, Hiroshima University. Furthermore, the present study found outcomes and challenges, and suggested further possibilities of public art subjects using ceramic materials.

Key words : education, sculpture, three-dimensional works, public art, material

1. 彫刻・立体造形作品と素材

「彫刻」における素材は、かつては、土、木、石、ブロンズ等が一般的であったが、近年、表現方法や表現形態、素材の多様化が見られるようになった。例えば鉄、ステンレス、ガラス、FRP、廃材等を用いた作品や、複合素材、いわゆるミクストメディア等と言ったように、彫刻概念の拡張とも相まって、もはや、「彫る」「刻む」といった技法に留まらない、いわば「立体造形」と呼ばれる多種多様な作品がアートシーンに登場してきている。茂木は、その編著書『美術科教育の基礎知識』において、彫刻・立体造形の定義や歴史・意味と表現形式に係る項目の中で、現代彫刻の様々なスタイルとして、①ミニマルアート、②もの派、③インスタレーション、④フィギュアと彫刻、等を取り上げ、その多様な方向性について言及している

②。また最近、日本では特に越後妻有アートトリエンナーレや瀬戸内国際芸術祭に代表されるようなアートプロジェクトも盛んで、美術館やギャラリーといったホワイトキューブに留まらない、サイトスペシフィックな立体作品のあり方の中で、土地の自然物を作品の一部や素材として取り込む事例も多く見られるようになった。

2. 彫刻学習に係る体系的教員養成カリキュラム

こういった背景の中で、特に中等教育における美術科教員養成においても、様々な表現方法や素材に関する学習経験、素材体験、知識の獲得等が重要なものというまでもない。もちろんそれは、美術科の中において彫刻・立体造形分野に限った話ではなく、絵画、デザイン、工芸等の実技を伴った内容学についても同様ではあるが、中でも彫刻

¹本文中の「筆者」は、一歟田の場合「筆者(H)」、井戸川の場合「筆者(I)」と表記する。

²福田隆眞、福本謹一、茂木一司編著、「彫刻・立体造形とは？歴史・意味と表現形式について教えてください」『美術科教育の基礎知識』(四訂版)、建帛社、2012年、pp.86-87

や工芸は特に作品と素材の関係性がより強く、その特性を、教員になるための知識として、また経験として、十分持つことが必要であろう。というのも、用いる素材によって、作品の印象や形態、テクスチャー、方向性等が大きく影響を受けるのが彫刻及び工芸分野であるからだ。しかし、こういった作品素材について、学ぶべき内容が多岐に渡っているにもかかわらず、高等教育機関において開講されている教員養成科目の内容は、十分対応できているのだろうか。これについて時折、教員養成系大学の授業担当者による先進的な試みや提案は散見されるが、各大学の事情やカリキュラム構成、時間的な制約等の課題や違いもあり、情報共有や一般化できている状況とは言い難い。

そこで本論では、広島大学教育学部第四類（生涯活動教育系）造形芸術系コースにおいて、彫刻に関わる実技や理論を体系的に学ぶカリキュラム編成として開講している、「彫刻表現実習基礎」「彫刻表現論」「彫刻教育素材実習」「彫刻表現演習」「彫刻表現実習」「彫刻表現総合演習」の6科目のうち、特に素材や、フィールドワークと作品制作を関連づけた点で特徴的な「彫刻表現演習」における実践について述べることにする。

この「彫刻表現演習」は、2年次前期の「彫刻表現論」と対をなす授業で、「彫刻表現論」が彫刻の特質とその特性について様々な視点や歴史から学ぶと共にディスカッション等を通して受講生各々の表現論の確立を目指す理論的な授業であるのに対して、「彫刻表現演習」は理論と実践を兼ね備えた総合的な資質を養うことを目的としている授業であり、3年次以降の、卒業研究を見据えた、発展的な能力を身につけるための土台となる基礎的能力を培うための授業と位置付けている³。

3. 「彫刻表現演習」の具体とパブリックアート

「彫刻表現演習」の具体的な内容としては、アクティブラーニングの要素を強く持たせ、「パブリックアート」をキーワードとして、(1)文献調査、(2)実地調査、(3)作品制作の3つの課題を通して、

発表やそれに基づくディスカッションと共に、そこで得られた知見をもとに、自身の作品制作に活かしていくというもので、社会における彫刻表現のあり方や、美術表現の意味や意義について思考を深める機会にしている。

3-1. 【課題Ⅰ】フィールドワークとしての調査

この「彫刻表現演習」の1つ目の課題として、パブリックアートに関する上記の(1)文献調査、(2)実地調査を行い、その結果を発表するというフィールドワークとしての活動を課している。調査期間は、約1ヶ月程度とし、調査地域は特に定めない。ただし、調査対象とするパブリックアートは、3次元の芸術である点を踏まえると共に、その作品が設置されている環境を見ることも大切な要素として捉えさせ、可能な限り現地調査を行うものとしている⁴。

基本調査項目は、作品タイトル、作者、設置場所、制作（設置）年月日、設置環境（文化ゾーン、ビジネスゾーン、教育ゾーン、行政ゾーン、交通ゾーン、緑化・公園ゾーン、住宅ゾーン、その他）、材質・素材、作品写真とし、加えて①作者・作品に関する情報、②取り上げた理由及び作品に対する考察を記述することとしている。特に②については、“社会における彫刻（あるいは美術・アート）のあり方（良い点や課題）”という観点を重視し、そこから、私たちの暮らしの中に当たり前のものとして溶け込んでいるパブリックアートを改めて見直し、その意義や課題について考え、発表し、ディスカッションを行っており、これらの活動によって、最終的に自身の表現に還元していくことをねらいとしている。

3-2. 【課題Ⅰ】調査の実際と傾向

令和元年から3年間の受講生の調査に関するデータは表1～3の通りである。この3年間の傾向を見ると、特に調査対象とした所在地が、「可能な限り現地調査を行うこと」としたことから、必然的に広島県（広島市11点、三原市3点、尾道市3点、呉市1点、福山市1点）が多くはなっているが、その他の山口県（6点）、香川県（6点）、愛媛

³ その他の授業として、「彫刻表現実習基礎」（1年次前期）では、彫刻に対する基本的な考え方や知識の学習、「触覚」に特化したワークショップ、土粘土を使ったレリーフ制作や石膏型取り等を行い、モデリングに係る技術的な経験値を高める。「彫刻教育素材実習」（1年次後期）は、石や木を素材にしたカーヴィングを主な学習内容としている。「彫刻表現実習」（3年次前期）は、人物モデルを使った頭像制作および石膏型取りを行う。「彫刻表現総合演習」（3年次後期）は、より自由度が高く、質の高い作品制作を目指して、各々が取り組む課題設定を行っている。

⁴ この課題は原則、現地調査としているが、コロナ禍においては、海外を含む遠方の場合等は、特例として書籍やインターネットで調査することも認めた。

県（2点）、岡山県（2点）、高知県（2点）、島根県（1点）、熊本県（1点）等も、受講生自身の出身県に関わるものが多く、この課題を契機に自身の郷里におけるパブリックアートの再発見や見直しに繋がったと思われる。

◆表1 学生による調査結果（令和元年度）

受講者	作品タイトル	作者	所在地	素材
A	渚の女神	園崎 勝三	広島県尾道市	ブロンズ
B	Hammering Man	Jonathan Borofsky	アメリカ合衆国	アルミニウムの機械アーム、電動モーターとフラットブラック自動車用塗料で塗られた中空鋼
C	つばき	大巻伸嗣	愛媛県松山市	金属
D	南瓜	草間 彌生	福岡県福岡市	FRP、ウレタン塗料
E	宙(そら)の根っこ	三木俊治	広島県広島市	ブロンズ、鉄
F	蟻の城	向井 良吉	山口県宇部市	鉄(腐材)
G	おさんぎつね	林健	広島県広島市	ブロンズ、石
H	鯉	柴久庵憲治	広島県広島市	不明
I	SKY-SCAPE	菊竹清文	広島県呉市	金属
J	飛翔	木戸修	広島県広島市	ステンレス
K	ハートのタングラム	福田繁雄	広島県広島市	(記載なし)
L	グラニトボール	(記載なし)	熊本県熊本市	御影石
M	TIME AND SPACE	イサム・ノグチ	香川県高松市	庵治石
	オクテトラ	イサム・ノグチ	香川県高松市	(不明)
	プレイ キューブ	イサム・ノグチ	香川県高松市	(不明)
	プレイ スカルプチュア	イサム・ノグチ	香川県高松市	(不明)
N	シーズン	イサム・ノグチ	香川県高松市	(不明)
N	興安丸の輪	(記載なし)	広島県三原市	金属、タイル、砂利

◆表2 学生による調査結果（令和2年度）

受講者	作品タイトル	作者	所在地	素材
A	千里眼「のぞいてみよう」瀬戸田から世界が見える	松永真	広島県尾道市	(不明)
	Point of Action	Studio cooke John	アメリカ合衆国	(不明)
	Eleven Heavy Things	MIRANDA, July	アメリカ合衆国	(不明)
	ロボロボ園	崔正化	東京都港区	プラスチック
B	つばき	大巻伸嗣	愛媛県松山市	アルミニウム、ウレタン塗料
	またきまい	流政之	香川県坂出市	装
D	足あと広場	岡本太郎	広島県福山市	(不明)
E	白鳥の泉	環境造形 0	兵庫県伊丹市	黒御影石、花崗岩
	サン・チャイルド	ヤノベケンジ	福島県福島市	鉄、ネオン、ほか
F	「石の風車」シリーズ	門脇おさむ	高知県高知市ほか	御影石ほか
G	沢田マンション	沢田高麗	高知県高知市	鉄筋コンクリート造り
H	宇野のシヨ	澁川テクニク	岡山県玉野市	おもちゃや灯油タンクなど、様々な種類のゴミ
	宇野コテス	澁川テクニク	岡山県玉野市	おもちゃや灯油タンクなど、様々な種類のゴミ
I	ママン	ルイズ・ブルジョワ	東京都港区	ブロンズ、ステンレス、大理石
J	花尾(Hanao-Sari)	松山智一	東京都新宿区	ステンレススチール
	鼓門	白江龍三	石川県金沢市	木造(他素材は不明)
	地球・一個の球体のために	岡本敦生	広島県三原市	白御影石、黒御影石、赤御影石、大理石、コルテン鋼、真鍮、ステンレススチール
K	「空気の港」	鈴木康広	東京都大田区	(記載なし)
K	庭子アートフェスティバル	(アーティスト多数)	神奈川県逗子市	(各種)

◆表3 学生による調査結果（令和3年度）

受講者	作品タイトル	作者	所在地	素材
A	ギザの大スフィンクス	不明	エジプト	石灰岩
	牛久大仏	(浄土真宗東本願寺派本山東本願寺)	茨城県牛久市	ブロンズ
	自由の女神像	Frédéric Auguste Bartholdi	アメリカ合衆国	ブロンズ
B	The Red Cube	イサム・ノグチ	アメリカ合衆国	(記載なし)
	足形みち	備前焼作家 佐藤晋助	広島県尾道市	備前焼
C	かたらい	杭谷一東	広島県三原市	カッター産大理石

D	my sky hole '85	井上武吉	広島県広島市	ステンレス(鏡面仕上げ)
	平和の門	Clarafalter, Jean-Michel/Imotte	広島県広島市	ガラス、ステンレス
	テク・テク・テク・テク	幾上善之	広島県広島市	ブロンズ
	1・1・1・2	田中薫	広島県広島市	アルミニウム
E	ルーツ/Roots	JAUINE, Piensa	東京都港区	ステンレススチール、塗装
	妙夢	安田恒	東京都港区	ブロンズ
F	Work 2012	三島善美代	東京都品川区	陶
G	ゆあみする女(模造品)	Falconet, Etienne-Maurice	山口県宇部市	石膏
	そりのあるかたち	澁川喜一	山口県宇部市	アルミニウム、石(花崗岩)
	ロンド	黒川晃彦	山口県宇部市	ブロンズ
	三個の立方体	内田晴之	山口県宇部市	ステンレス
H	翔べ未来に向けて	高橋秀	広島県広島市	ステンレススチール
I	「夕陽の街 桜の国」	原田・監修：こうの史代	広島県広島市	ステンドグラス
J	星の塔	(不明)	山口県下松市	鉄筋コンクリートステンレス
K	OROCHI 2005	澁川喜一	島根県益田市	白御影石

また取り上げられている作者も、圓勝勝三(彫刻家, 1905-2003)、柴久庵憲治(インダストリアルデザイナー, 1929-2015)、林健(彫刻家, 1908-2002)、高橋秀(画家・版画家・彫刻家, 1930-)、杭谷一東(彫刻家, 1942-)、岡本敦生(彫刻家, 1951-)、イサム・ノグチ(彫刻家, 1904-1988)等の広島県出身または縁の深い彫刻家、あるいはそれぞれの地域に深いつながりがある作家等が多く挙げられ、地域に根ざしたアートへの理解が進む契機になったと思われる。

実際に授業後の受講生へのアンケートの中にも、「現地調査することで、作品に触れられることの喜びや大きさからくる存在感を直に感じられた」「興味があった地元の作家について調べ、その由来や場所との関係性について調べることができた」「これまで身の周りにあるパブリックアートについて深く考えたことがなかったので、今回の経験からパブリックアートにも目が向けられるようになり、アンテナが広がったと感じている」という類の意見が多く見られた。更に素材について見れば、パブリックアートの恒久性や耐久性という点から、ブロンズ、ステンレス、鉄、銅、アルミニウム等の金属や、大理石、御影石、花崗岩、庵治石等の岩石類等、野外作品として一般的なものから、ガラス、木、FRPに加えて、陶やミクストメディア(ゴミ類)に至るまで、様々な素材によって作品が成立していることがわかる内容となっていた。

また各受講生の調査結果の発表にあたっては、授業の最終第13回~15回に設定し、1人10分の発表、5分の質疑応答とし、およそ3回分の授業回数を当てて、全員行った。その際、発表内容に関わるレジュメは必須とし、加えて必要に応じてMicrosoft PowerPoint等を用いたプレゼンテーション資料や図版、実物等の資料を準備するように指示した。

3-3. 【課題Ⅱ・Ⅲ】制作課題の実際

前述のパブリックアートの調査（【課題Ⅰ】）に加えて、この授業のもう一つの大きな課題が、実際に設置する場所を設定したパブリックアートのマケット（試作）制作である。

この制作の大きな目的は、それまで自己表現の手段として行なってきた制作から、初めて他者や、より広い意味での社会を意識して、作品を構想・制作するという点であり、この課題によって、受講生は、自身の想いだけではなく、他者の想いを意識・想定しながら制作することとなる。それは、ある意味で、制作上の制約となるが、その経験を通して、社会とアートとの関係を学ぶことに繋がればと考えている。

令和元年から3年間の受講生の作品制作に関する課題は以下の通りである。

◆令和元年度

・【課題Ⅱ】「クレス・オルデンバーグのソフトスカルプチュアをイメージしながら、オリジナルスーツをテーマにしたパブリックアートを考え、マケット作品を作りなさい。」

・【課題Ⅲ】「アレクサンダー・カルダーのモビールをイメージしながら、面の構成をテーマとしたパブリックアートを考え、マケット作品を作りなさい。」

◆令和2年度

・【課題Ⅱ】「屋内（または屋外）空間において、天井から吊るす作品を想定して、モビールを作りなさい。」

・【課題Ⅲ】「身の回りの日用品等をモチーフに、日常生活にユーモア・驚き・楽しさを与えるようなパブリックアートを考え、マケット作品を作りなさい。」

◆令和3年度

・【課題Ⅱ】「現在の広島大学病院『FOUR SEASONS TREE』の上部デザインについて、別案を考え、スチレンボードを主材料にマケット作品を作りなさい。その際、ホスピタルアートとしての意義を十分に考慮した上で、コンセプトをまとめ、制作すること。」

・【課題Ⅲ】「現在の広島大学病院『FOUR SEASONS TREE』に代わるパブリックアート（ホスピタルアート）を考え、スチレンボードを主材

料にマケット作品を作りなさい。」

以上、制作課題としている2つのテーマ（課題Ⅱ、課題Ⅲ）の内容を毎年変更しながら、より良い課題設定を求めて試行錯誤しているが、このうち本論では、最も近年に行なった令和3年度の事例を中心に、考察を進めたい。

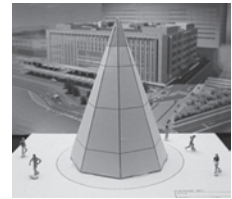
3-4. 【課題Ⅱ】パブリックアートとしてのホスピタルアート

筆者（H）は2013年に、広島大学病院において新診療棟を建設するにあたり、その空間に相応しいオブジェの依頼があり、約6mの高さのあるガラスの作品『FOUR SEASONS TREE』（図1）を設置した。その経緯及び成果と課題については拙論⁵⁶で述べた通りだが、この制作において、筆者（H）がアーティストとしての実務者となり、そこで得た経験や知見を通して、受講生に対し、社会（この場合、医療機関）におけるアートのあり方を伝えるとともに、考察する機会を設けたいと考えた。

そこで、まず【課題Ⅱ】では、既存の作品のフォルム（八角錐・図2）を前提として、その8面に描かれる平面デザインを考える課題とした。この課題では、以下のような、実際のオブジェ制作時に示されたものと同様の条件で考案させた。



（図1）広島大学病院オブジェ



（図2）マケット基本形

〈作品を構想する際の条件〉

- ・キーコンセプトは“Green Hospital”
- ・グリーン化技術, グリーンガーデン, グリーンアート
- 「グリーン（植物）を連想させるアートにより、来院者一人ひとりの自己治癒力を高める治療空間を展開する」
- ・《ウェイファインディング》: サイン計画として空間を特徴化し、記憶を創り出すもの
- ・《ヒーリング》: 不安を和らげ心を癒す, 身近なもの, 親しみ感のあるもの
- ・《アメニティ》: 快適で気持ちの良い環境, 明るい

⁵一鍛田徹, 「ホスピタルアートの実践と評価-作品『FOUR SEASONS TREE』を通して」, 大学美術教育学会誌「美術教育学研究」第49号, 2017, pp.329-336

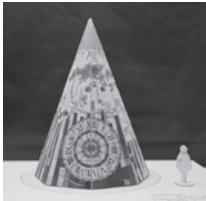
⁶一鍛田徹, 「病院における彫刻・立体造形作品の可能性と課題に関する研究」, 大学美術教育学会誌「美術教育学研究」第53号, 2021, pp.201-208

イメージを醸し出すもの⁷

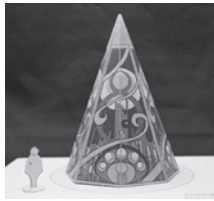
- ・事前ヒアリングにおける具体的な3つの条件
- (1)病院を明るいイメージにするもの
- (2)常設で、昼はオブジェ、夜は光のイルミネーションになるもの
- (3)2階部分と同程度の高さ

3-5. 提出された【課題Ⅱ】作品の実際

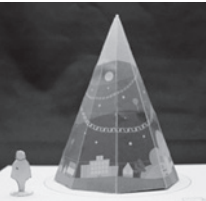
この【課題Ⅱ】について、各受講生からはそれぞれのアイデアに基づく多様な作品が提出されたが、その中からいくつか特徴的だったものについて触れたい。



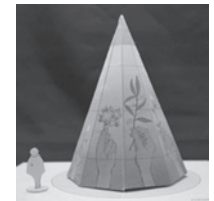
(図3) 学生作品『KISEKI』



(図4) 学生作品『look up』



(図5 (左)) 学生作品『やさしい町並み』



(図6 (右)) 学生作品『てのひらブーケ』

例えば、『KISESKI』(図3)は、時計や植物を螺旋状に配した作品で、作者本人のコメントには、「病院の白くて怖いというイメージを打開すべく、多様な色を取り入れ「明るく親しみやすい空間」を表現できるように心がけた」「描かれている植物は人間を表しており、この植物の成長は人生の歩みである。これは、キーコンセプトである「Green Hospital」の「Green」からとっている。」「病院はその命をより長く繋ぎ止める場であり、新たな命を紡いでいく場でもある。そのため、花を咲かせた植物は、また芽を生やし新たな命へと繋がっていく。この作品は、一周をもって紡がれていく命の永遠を表している。」と言った解説が記されている。

また『look up』(図4)は、基本形がクリスマスツリーを模した八角錐であることから、「クリスマスの飾りである星とティンセルガーランド⁸に着想を得た」作品で、「螺旋の形によって下から上に視線を誘導し、作品の頂上には存在しないもの、

逆に言えばイルミネーションがなされる夜の空にはある「星」を想起させることで、星の象徴内容として代表される「希望」や「夢」を、患者を中心とした鑑賞者が感じられるようにデザインしたとのことであった。これにより、「下から上に伸びていく時間を感じることで、再生や、人生を通じた健康の発展という、「よりよくなる」ことを実感的に味わえる癒しの場となるように意図したと言う。

『やさしい町並み』(図5)は、「デザインを見るのは患者や職員、通行人などさまざまな人々であるため、可能な限り万人が快いと思うもの、不快に思わないものをモチーフに取り入れようとした」ということで、「病院の周りを絵本に出てくるような色彩豊かな風景が囲んでいるようなイラストを配置したい」とし、「モチーフは町並みと空の風景にし、空からDNAの構造に似た形のリボンが降りてきている。」ものとしたようだ。

『てのひらブーケ』(図6)は、課題が与えられた時に真っ先に「花を手向けるような手のひら及び花を主役としたデザイン」が思いついたとのことで、特に描かれている8種類の花は、それぞれ前向きになれる花言葉から選択していた。

以上のように、その他作品も含めて、受講生は、医療機関という場所性と他者を意識することを十分に考慮に入れながら、作品を構想したことが窺えた。

3-6. 【課題Ⅲ】作品の実際

一方、【課題Ⅲ】では、8面のデザインという制約を撤廃して、各受講者に0から発想させ、素材の面でも、より自由度の高い制作課題とした。(ただし、主材料はスチレンボードとした。)

例えば『アルメリア』(図7)は、発泡ポリスチレン100φ、コピー用紙を材料としたマケットで、鑑賞者の年齢層の幅広さに対応できるようにする等いくつかの理由から、海(及びその生き物)をモチーフにしていた。特に「アート」というより、「ホスピタル」という目的を最優先して、「できるだけアーティストという部分が薄れ作品そのものを純粋に楽しんでもらえるように意識した」とのことであった。

『光合成』(図8)と題した作品は、スチレンボード、人工芝シート、木の模型を使用したもので、光合成の、「CO₂をO₂と養分に変えるという仕組み」が、「自分の中のもやもやとした気持ちをリ

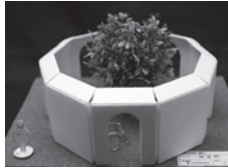
⁷「広島大学病院診療棟 -Green Hospital-」(理念、整備方針、基本コンセプト等が記載されたパンフレット)

⁸(クリスマスなどの)びかびか光る飾り物の花環

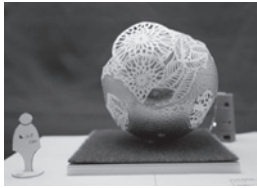
セットし、「リフレッシュする心の動き」と似ていることから、この作品の内部に入り、「日光を浴びることでエネルギーを蓄え、元気になって外に出てくような空間を作りたい」という発想により作られていた。特にユニバーサルデザインを心がけ、「ここに立ち寄るすべての人が心地良く利用できる空間を心がけた」とのことであった。また中央に位置する樹木の候補として、花言葉や実際の樹木の成長状況等も考慮し、ケヤキ、クロガネモチ、ユーカリ等を想定していた。



(図7) 学生作品『アルメリア』



(図8) 学生作品『光合成』



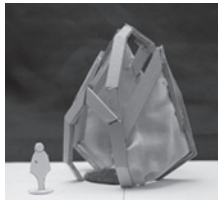
(図9) 学生作品『ぬくもり』



(図10) 学生作品『癒しのテラリウム』



(図11) 学生作品『命の木』



(図12) 学生作品『つつみ』

『ぬくもり』(図9)は、発泡スチロール、ケント紙、スプレー、LED、人工芝を使った作品で、銀色に塗装された球体の「人の両手」、切り絵状の「植物」、中心部分の「命の灯火」を、それぞれ抽象化しており、特に「アートの力の膨大さゆえに意図せぬ解釈の仕方が生まれてしまう危険性を意識し、「派手な色は使わずシンプルに見せる、かたちも一眼ではわからないような抽象形態を用いている」とのことだった。

『癒しのテラリウム』(図10)は、軽量樹脂粘土、アクリル絵の具、針金等を用いた作品で、「自然は、治癒力やストレス軽減の効果」があるので、「自然を取り入れたホスピタルアートが最も適しているのではないかと考え、全面ガラス張り仕様のテラリウムをモチーフとし、「立方体の形をした容器の中に、自然が溢れているというイメージ」の作品を構想していた。「形はできるだけシンプル

にし、心を疲れさせないもの」とし、「子どもから大人まで楽しめるように、パステル調(優しい色合い)で少しカラフルにした。テラリウムの中は歩くことができるようになって」いるとのことで、単に鑑賞するだけでなく、関われるアートを目指したことがわかる。

『命の木』(図11)は、針金、石粉粘土、UVレジンを使ったマケットで、「木には人の生活を見守り見続けてくれているような存在でもあるのかもしれない」ことから、「落ち着いた雰囲気のある大木をイメージして制作」し、また「木の中にはご神木のように神聖視されるものがあることから、木の持つ神秘的なイメージを引き出して、日常と異なる癒しの空間を印象付けたい」ため、白色の木及び銀色の葉というモチーフで作品制作を行っていた。また木のエネルギーや希望、生きている感じや動きを表現するために、周辺に球体のオブジェを配置するような案となっている。

『つつみ』(図12)は、布、ラッカースプレー、人工芝を用いた作品で、「抱擁、包み込まれるイメージをつぼみの形」で表している。その意図は、「抱擁されることや、誰かに身を預けることに対しては、疲れているときに最も欲求が高まる。病院は、回復を求めた人たちが、医者や看護師、家族、友人に支えられながら時間をかけてより良くなっていく場所である。そのような癒しの空間を象徴するとともに、この作品自体も誰かの癒しのための儀式的空間として機能してほしいとの思いから構想」したそうだ。

3-7. 【課題Ⅲ】に係る成果と課題

受講生は、この【課題Ⅲ】を通じて、どのようなことを考えたのか、学生本人の「解説シート」や振り返りをもとに考察したい。作品の構想や制作後の気づきとして、受講生は、「病院を訪れる患者さんが見ていて不快にならないかということは強く意識していた」「共同空間におけるアートを老若男女が好印象を持つ作品とは何か」「パブリックアートは一方通行ではなく、見る人触れる人とのコミュニケーションにもなるため、「鑑賞者にどんな印象を与えたいか」ということを考えると作家性が薄くなったり、アートらしくないものになってしまうのではないかと」「病院をもっと明るい施設として機能させるには、といったことに重点を置いて制作を進めた」「ホスピタルアートは、何を1番大切にするかという部分が難しい。患者さんなのか、病院の職員さんなのか、アートとしての規模なのか...。」「アートはどのよう

な状況に置かれていても「センシティブ」な側面を持ち合わせており、それを病院に置くということの意味をそれに携わるすべての人が吟味する必要がある。「患者やその家族にとって、踏み込み過ぎず放っておかないような最適の距離感はいくらか、程よい癒し効果を与えるアートとはどんなものか」「パブリックアートの制作は、明確な表現対象や場所、目的があるために、制約が多いと感じた。それは、縛りという意味ではなくて、構想をする段階から誰かとコミュニケーションをとっているという感覚である。(中略)このことは、新しい人に出会う度に新しい自分に出会うように、新しい関係性をアートの中に持つことで、アートの新しい可能性を模索することだ。改めて、パブリックアートのアートとしての新奇性とその可能性を確認した。」等といった感想が述べられていた。

こういった受講生たちの言葉は、パブリックアートやホスピタルアートについて、課題制作Ⅱ及びⅢを通してさまざまな思いを強く持ったことが伺え、「彫刻表現演習」の大きな目的である、社会における彫刻表現のあり方や、美術表現の意味や意義について思考を深める契機になったことが伺える。また素材についても、特に課題Ⅲでは、受講生がそれぞれ創意工夫をして、適した材料を自身で考え、調達、加工することで、様々な広がりを見せた。この自身の経験と、他者の表現上の工夫や意図を互いに情報交換、意見交換する中で、素材に対する見方、考え方が大きく広がったことは成果と言えるだろう。

一方、マケットで用いる素材と実物の素材は、当然異なり、試作段階で実物制作を十分に想定しにくい課題も残る。受講生には、作品プレゼンテーションの段階で、実際の素材を想定しながら発表を行うように指示したものの、素材の耐久性、加工のし易さ、物理的な安全性から経済的な面に至るまで、受講生自身が実際の体験を有していないことから、十分に考慮に入れることは難しい。そのため、授業者が実際の作品制作の経過について事例を示しながら補足していく必要もあるだろう。例えば次節のような内容を紹介し、マケット素材の可能性を広げていくことも考えられる。

4. パブリックアート素材としての陶土

前項3-2で述べられているように、パブリックアートには、恒久性や耐性の点から、様々な材料が用いられるが、ここでは陶土素材について述べる。

4-1. 陶土を用いた造形「陶彫」について

日本における陶土を使用した立体造形は、縄文時代の呪術社会における祭儀に使われた土偶に始まり、古墳時代には、古墳をかざる葬祭儀礼の道具として、生き物や屋形を象った埴輪が存在する。以降、中世における魔除けや守護神として作られた狛犬等を経て、近世では神仏を祀るための媒介となった祭器具などへと進化していった。そして、近代に入り西洋の美術概念や技法・製法を採り入れたことによる進展期を経て、現代では、陶芸家が陶土を使って、器以外の立体造形作品を制作したり、彫刻家が作品を制作するうえでの材料として陶土を使ったりすることは、ごく普通のこととなっている。これは、職人としての陶工のみならず、芸術家が陶芸と彫刻の領域を超えて、自己を表現するための材料として陶土を用いるようになったことを示し、そして今日では、陶土固有の性質を生かした多くの彫刻作品が制作され、陶土を材料として作られたオブジェ作品や彫刻作品などを指し示す美術用語として、「陶彫」を用いることが定着している。

4-2. 陶彫の素材・プロセス・技法について

陶彫に用いる粘土は陶土とも呼ばれ、次のような特徴がある、①変貌自在に形を変える(可塑性)、②時間とともに硬くなっていく(乾燥・収縮)、③形を壊して新しい粘土に生まれ変わる(再生)、④焼くことにより硬さが増す(硬化)。

陶土は焼くことで、ガラス化の現象を産み出して、焼物という無機物となり、作られた形は、状態を不変に保つことができる。しかし、固い物にぶつけて衝撃を与えると、割れたりひびが入ってしまったりする。それは陶土に入っている土や岩、そして、それらを包み込む長石に弾力性がないためであるが、それが焼物の短所となっている。しかし、逆に土や岩、長石がいずれも無機物であるために、時間が経っても風化したり、朽ちたりすることが少ないという長所が生まれる。

陶彫は、粘土で形を作ることから焼き上がる段階までのそれぞれのプロセスに、素材や技術と人が相互に作用する関係がある。一般的なプロセスとしては「粘土の選択」、「成形」、「乾燥」、「素焼き」、「施釉」、「本焼」を経ることになるが、それぞれの工程に技法を絡ませ、個々の制作環境によって、技法を取捨選択しつつ作品が焼き上がるのである。

4-3. 陶土を使ったパブリックアートの事例

筆者(I)は、陶土を使ったパブリックアートの

事例として、広島県呉市下蒲刈島町にあるモニュメント“『生』土・火・知・空・水”（1999年設置）（図13）（マケット（図14））について調査した。このモニュメントは、とびしま海道の最初の島である下蒲刈島と本島に架かる安芸灘大橋に近い瀬戸内海を望む展望公園の白崎園に設置されている。安芸灘大橋の2000年1月の開通に伴い、瀬戸内海の下蒲刈島と周辺の安芸灘諸島全体が本土と陸続きになり、その記念碑として、彫刻家・陶芸家の今井真正（1961年～）が、広島道路公社から依頼を受けて制作したモニュメントである。作品中央部に立つ2本の柱状の形体は、男性と女性が生命の核として力強く空に向かって伸びていく様子をイメージしており、底盤は大地、波（突起）、春蘭などを現している。⁹



（図13）今井真正『生』



（図14）今井真正『生』マケット

この作品は、陶土を高火度で焼成した幾つもの陶板を組み合わせて構築されている。陶板によっては約1200℃で焼成されており、その数は土台部分に約3000ピース、2本の柱状部分に約350ピースを使用している。主な材料となる陶土には、下蒲刈島のものを使いたいという作者の思いから、島内各地を調査し、使用可能な粘土を見つけて下蒲刈町の協力で粘土を大量に採取し調合した。また釉薬についても島内で多く栽培されているミカンの木を燃やして作られた木灰を釉薬の原料としており、その効果によって黄色や緑に発色させることに成功している。

4-4. 陶土を使ったパブリックアートの試作の提案

日本のパブリックアートの多くは指名制度、もしくはコンペティション形式で設置される。どちらの場合でも作家がドローイングやマケット等の資料を制作してプレゼンテーションに用いることが多いが、アイデアが採用され実作品となる一方で、ここに至るまでの試行錯誤や思索段階のマケット等は公開されることは少ない。

しかし、前項3-3で述べられているように、教育の場ではパブリックアートとして実現するまでの道筋、つまり作品の試行錯誤や思索段階を重要

視し、作る過程そのものに注目する必要がある。物体としての質量をもった立体を表現するのではなく、マケットにより彫刻を表現することで立体造形の仕組みを現し、公共彫刻の在り方に焦点を当てること。こうした方法を通して、これまではそれほど認識されることのなかった彫刻の在り様や、彫刻作品の恒久的な設置について検討することができる。

マケットの制作を行う上では、厚紙、バルサ材、スチレンボード、粘土類などの加工しやすい素材を選択することが一般的である。陶土もまた粘土の一種であり、前項で紹介したような特質から、可塑性に優れた素材であるため、頭に浮かんだイメージを即興的に作り出すことにも効果的であり、三次元でのクロッキーをおこなうように手で自由に粘土をちぎったり、つけたりしてモデリングを行うことができる。そのためマケット制作のような三次元空間における多角的な構想の過程では、陶土は有用な素材である。また、陶土を使ったパブリックアートの試作で陶土を用いることは、陶磁器と同じように釉薬等の装飾を行い、焼成することも可能なので、実作品に近い素材感のマケットを作ることができる。

5. 総括

以上、パブリックアートに関する題材及び素材に着目して、美術科教員養成における彫刻・立体造形分野の実践事例と、陶土を使った試作の提案について述べてきたが、社会と美術との関係性や、他者のための美術表現のあり方について学ぶことは、必要不可欠な視点であり、今後も継続して取り組んでいきたい。ただし、これらを学ぶための課題設定のうち、特に制作課題については、この度の提案も含めて、その題材や素材について改善の余地があり、今後も試行錯誤を続けたい。

謝辞

本論文の執筆にあたって、貴重な画像のご提供や取材のご協力をいただいた彫刻家・陶芸家の今井真正氏、並びに、画像・アンケートのご協力をいただいた受講生の皆様に心より感謝申し上げます。

付記

本論文は、科学研究費助成基盤研究(C)「日本におけるホスピタルアートの現状とコードに関する研究」(17K02363)による助成を受けています。

⁹ 広島県道路公社ホームページ（安芸灘大橋について、白崎園） https://www.hprc.or.jp/akinada_bridge/